

# 2025年度青山学院大学一般選抜（個別学部日程）

## 地球社会共生学部

### 論述

#### 【記述式の正解】

以下は標準的な解答例であり、別解がある場合があります。

設問1		1.	A	2.	C	3.	C	4.	A	
設問2	問1	1996年 79.2%		2008年 70.6%						
	問2	第1に、グローバル化と経済統合が進んだことである。教育や高度なスキルが重要視される一方、非熟練労働者は取り残される傾向がある。第2に、技術進歩である。これによって生産性が向上したが、資本分配率が労働分配率より大きくなったり、スキル偏向型技術革新が進んだ。第3に、労働市場の規制緩和である。効率的な資源配分を実現する一方、正規雇用と非正規雇用の間の所得格差が問題となる。第4に、都市化の進展である。都市が国家の枠組みを超えた機能を担うようになり、都市と地方の経済状態に差が生じるようになった。								
設問3	問1	④								
	問2	核抑止論とは、相手国から攻撃を受けた場合、相手国を確実に破壊できる報復用の核戦力を持つことで、相手に主張を続ける限り、核廃絶がなかなか進まないから。								
	問3	日本は米国の核（の傘）に守られており、全ての核兵器の禁止、廃絶を求める条約はそれと矛盾するから。								
	問4	1960～80年代に旧ソ連が保有数を伸ばしたことや、90年代以降、両国の保有数が減少しつつも核廃絶に至らないことで両国が報復用の核を維持していることがわかる。								